

倶多楽

1 概況

上空からの観測では、噴気の状態や火口の状況に変化はありませんでした。火山活動は静穏な状態です。

2 地震および微動の発生状況

火山性地震は少ない状態が続いており、今期間の回数は3回でした。火山性微動は観測されませんでした。

表1 倶多楽 地震・微動の月回数（上登別）

2005～2006 年	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
地震回数	3	1	0	1	0	1	0	2	2	3	1	3
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

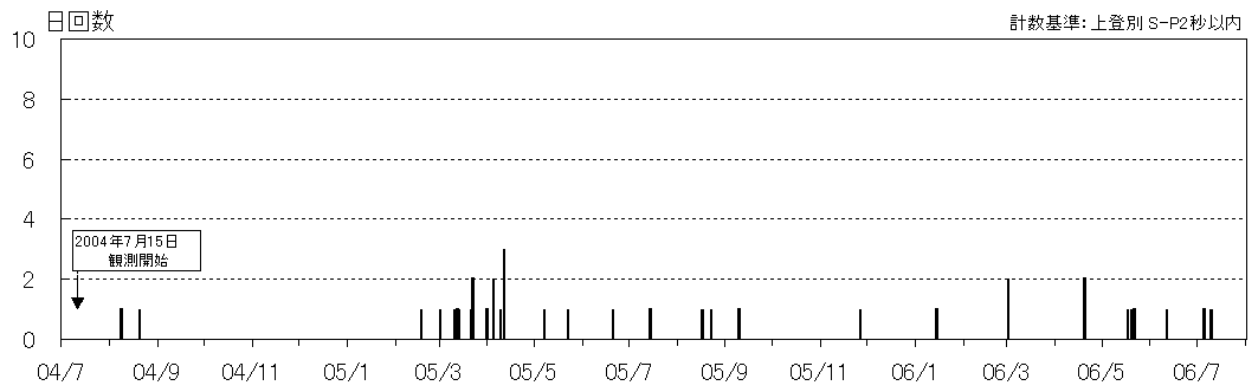


図1 倶多楽 日別地震回数（2004 年 7 月 15 日～2006 年 7 月 31 日）

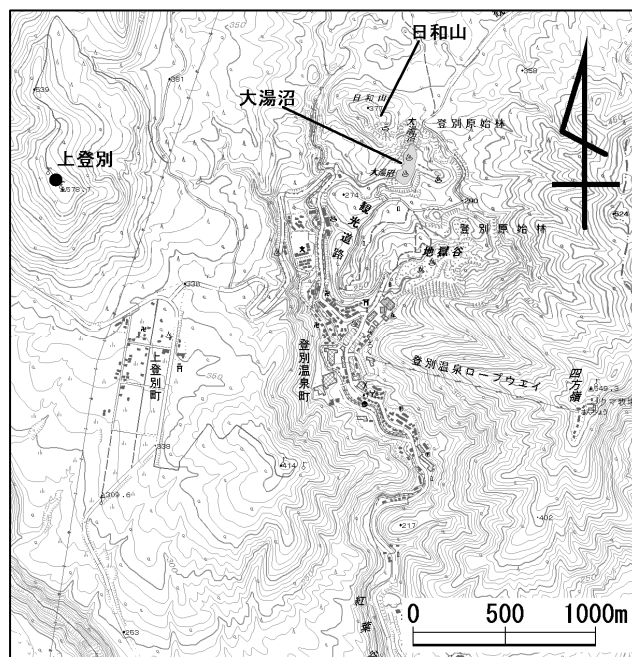


図2 倶多楽 地震計設置地点(图中●)

本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています。（承認番号 平 17 総複、第 650 号）

3 上空からの観測結果

25 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、日和山山頂部の噴気孔からは白色の噴気が 20m 程度の高さまで噴出していました。また、地獄谷爆裂火口では弱い噴気が認められました。噴気の状態はこれまでと大きな変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、前回（2005 年 11 月 2 日）と比べて大湯沼周辺及び地獄谷周辺の温度分布に変化は認められませんでした。

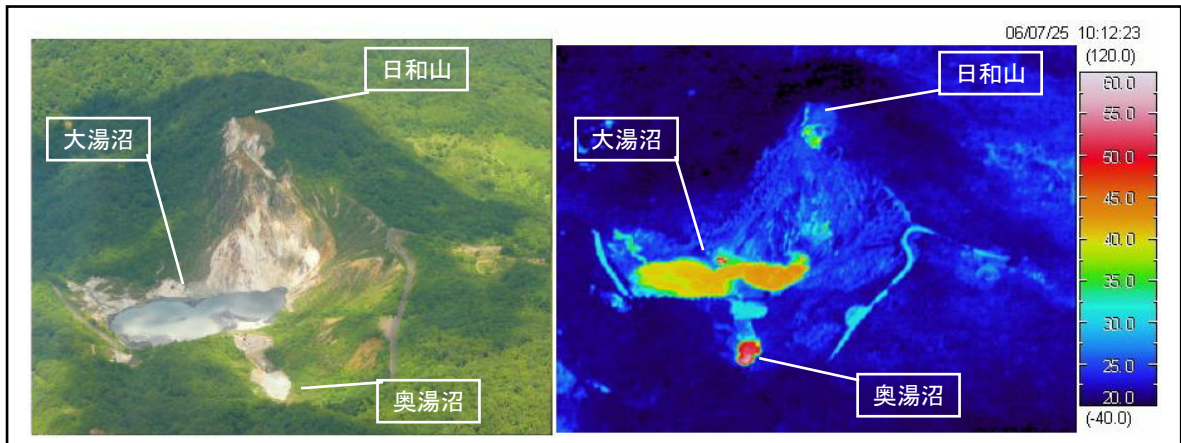


図3 倶多楽 日和山および大湯沼周辺の表面温度分布

（2006 年 7 月 25 日 南東側上空から撮影：地形図中①、北海道開発局の協力による）

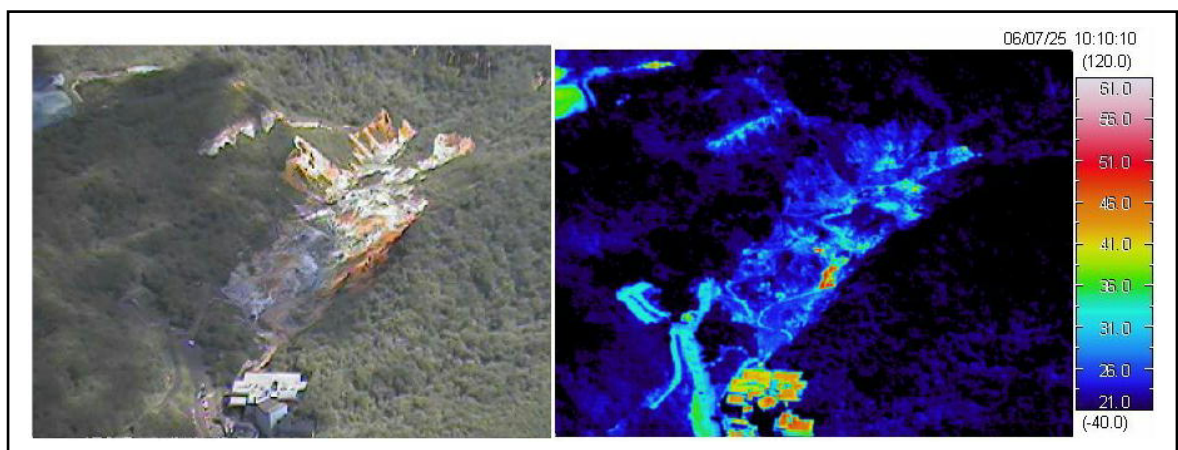
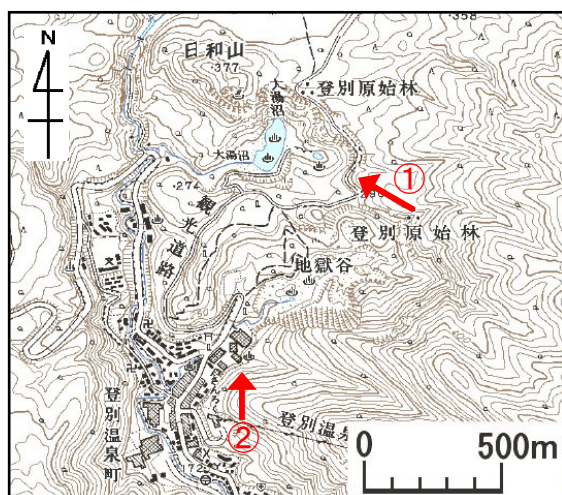


図4 倶多楽 地獄谷付近の表面温度分布

（2006 年 7 月 25 日 南側上空から撮影：地形図中②、北海道開発局の協力による）



* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

図5 倶多楽 日和山・地獄谷周辺の地形図

丸数字：撮影位置 ↑：撮影方向